

項目	内容
名称	プラズマローゲン、プラスマローゲン、アルケニルエーテルリン脂質 [英]Plasmalogen [学名]-
概要	プラズマローゲンは、グリセロール骨格の1位にビニルエーテル結合を有するグリセロリン脂質。心筋、脳、骨格筋、好中球、マクロファージなどに特に多く、脳と心臓のリン脂質の10～30%を占める。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	-
分析法	-
有効性	
ヒトでの評価	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。

生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・ 感覚器	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等度アルツハイマー病または中等度認知機能障害を有する高齢者285名 (試験群145名、平均76.4±6.0歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ホタテ貝由来プラズマローゲン0.5 mg×2回/日を24週間摂取させたところ、認知機能 (MMSE-J)、論理的記憶 (WMS-R)、高齢者うつ尺度 (GDS) に影響は認められなかった (PMID:28259590)。 ・認知機能低下を自覚する健康な人75名 (日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、プラズマローゲン0.25 mg+ビタミンE 140 mg/日 (23名、平均58.8±10.5歳) またはプラズマローゲン0.5 mg+ビタミンE 140 mg/日 (27名、平均57.0±10.7歳) を12週間摂取させたところ、認知機能の自己評価27項目中、0.25 mg摂取では13項目、0.5 mg摂取では8項目の改善が認められたが、認知機能検査 (MMSE)、知能・性格検査 (内田クレペリン検査) に影響は認められなかった (2017254600)。 ・もの忘れを自覚する健康な人63名 (日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏由来プラズマローゲンを1 mg (15名、平均57.2±6.1歳)、10 mg (16名、平均59.9±8.3歳) または100 mg (15名、平均59.0±8.3歳) / 日、12週間摂取させたところ、RBANS神経心理テスト、認知機能 (コグニトラックス) の結果に影響は認められなかった (2018178442)。
免疫・がん・ 炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p> <p>(32) 生化学辞典 第4版 東京化学同人</p> <p>(101) 生物学辞典 第1版 東京化学同人</p> <p>(2017254600) 診療と新薬. 2016;53(12):1125-35.</p> <p>(2018178442) 薬理と治療. 2017;45(9):1511-21.</p> <p>(PMID:28259590) EBioMedicine. 2017 Mar;17:199-205.</p>